

# 継続事業評価調書

## 【土地区画整理事業】

### 英賀保駅周辺地区

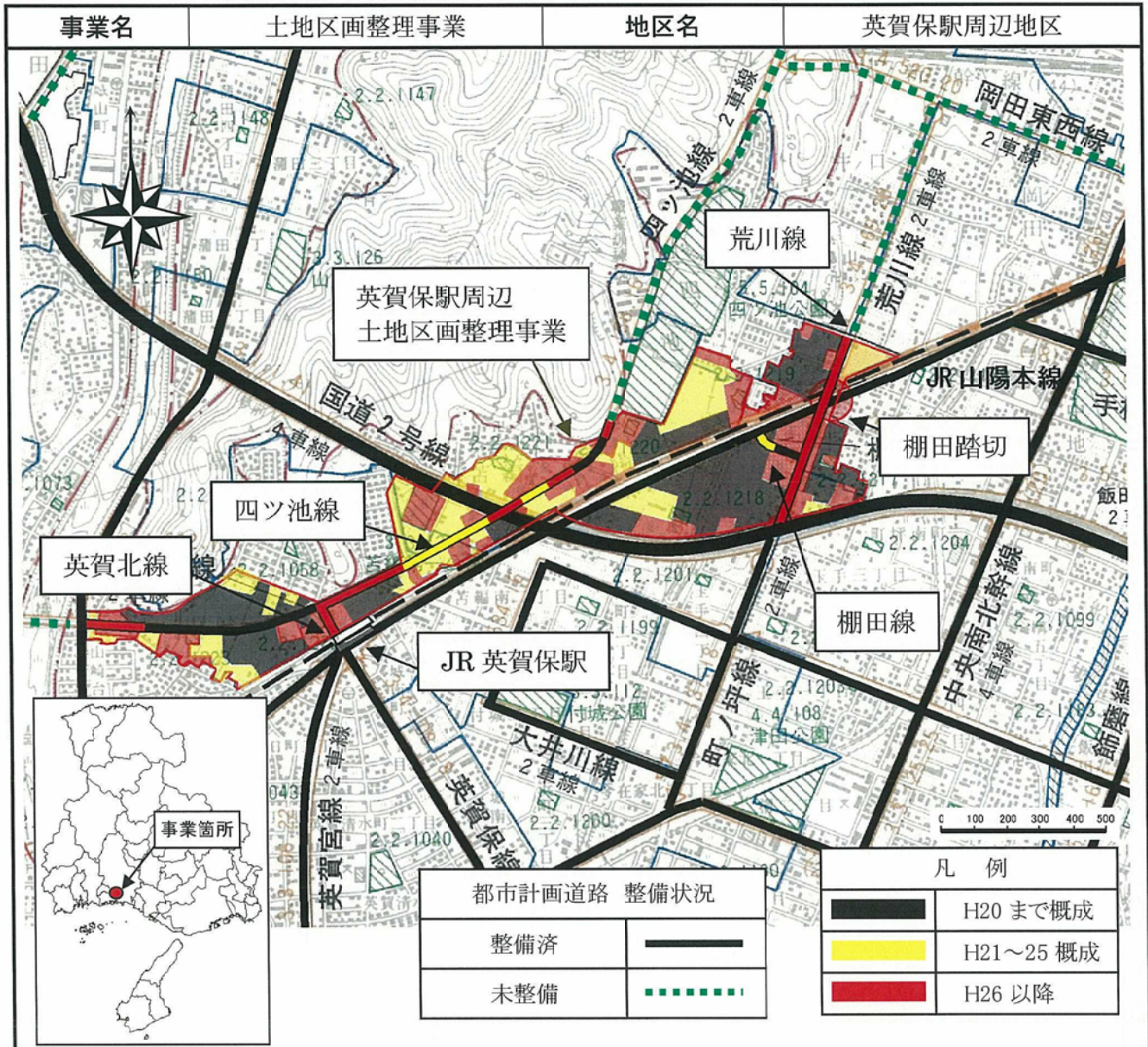
県土整備部

まちづくり局 市街地整備課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

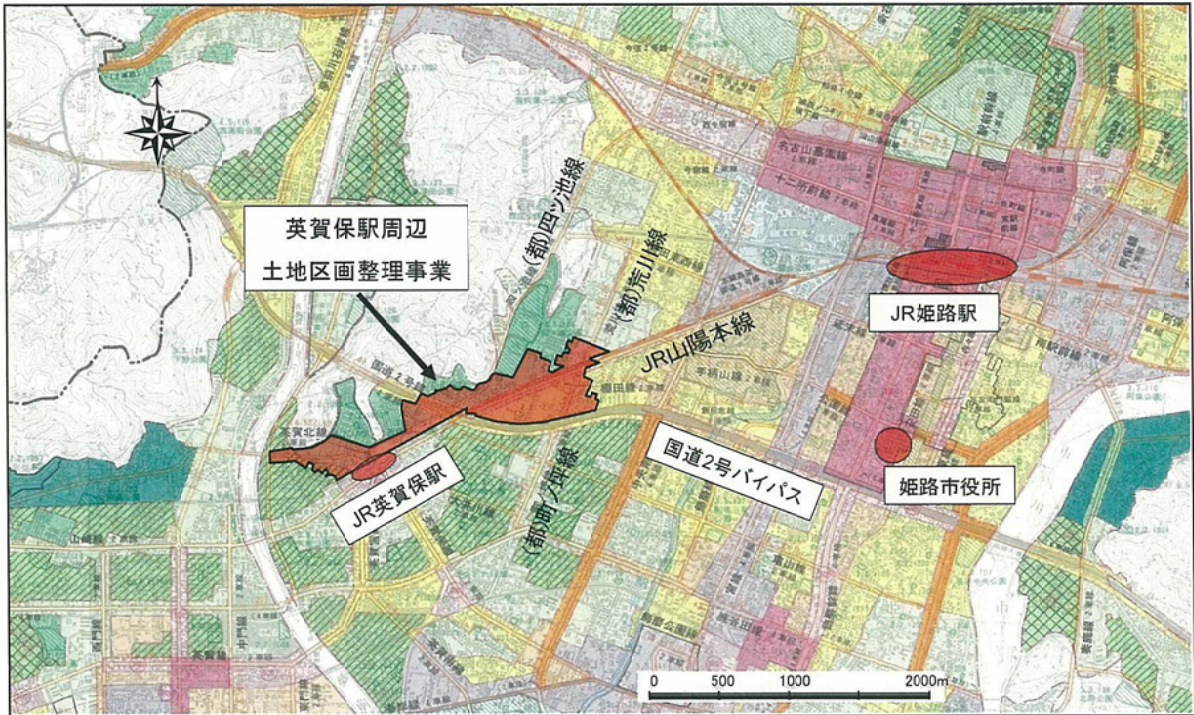
部課室名	県土整備部まちづくり局 市街地整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	課長 藪本 和法 (副課長兼区画整理係長 中野光雄)	内線	4670 (4673)	
事業種目	土地区画整理事業	新規評価年度	—	現計画	前回評価時点	
事業名	英賀保駅周辺 土地区画整理事業 (組合施行)	事業採択年度	平成 11 年度	総事業費(基本事業費)	205 億円(119 億円)	219 億円(108 億円)
		着工年度	平成 11 年度	内地補償費	73 億円	72 億円
		再評価年度	平成 20 年度	完成予定年度	平成 34 年度	平成 29 年度
事業区間	姫路市 町坪、玉手、苦編、飾磨区山崎他	進捗率 (内用補進捗率)		48% (56%)	24% (41%)	
		残事業費		106 億円	165 億円	
事業の目的			事業内容 ※前回評価時点と変更なし			
<p>JR山陽本線英賀保駅周辺の本地区において、土地の有効活用による健全かつ良好な市街地を形成するため、土地所有者による組合を設立し、道路等の公共施設を整備する。</p> <p>○交通渋滞の緩和・歩行者の安全性の向上 JR山陽本線の柵田踏切の立体交差化(アングパス)を実施。歩行者、通学児童の安全性を向上するため、歩道を設置。</p> <p>○安全・安心及び居住環境の向上 雨水による浸水被害を低減し、安全・安心な宅地を整備。駅アクセス向上や憩いの場創出のため、道路や公園を整備。</p>			<p>施行区域面積 69.5ha</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路(※駅前広場含む) 荒川線(20m)他3路線 2,551m</li> <li>・公園(近隣公園1、街区公園7) 24,000㎡</li> <li>・区画道路(4~12m) 16,017m</li> <li>・河川・水路(四ツ池川他2河川・水路) 26,690m</li> </ul> <p>[基本事業費負担割合 国 55%、県 22.5%、市 22.5%]</p>			
事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<p>①姫路市の人口は、ほぼ横ばいであるが、地区人口は増加傾向。</p> <p>②前回評価時点に比べ地価が下落傾向。(地区平均約2%)</p> <p>③(都)荒川線の交通量(H11:8,029→H22:12,374(台/12h))が大幅に増加、混雑度3.34となっており、飽和状態が悪化。</p> <p>④柵田踏切は1日24分閉鎖していることにより、慢性的に渋滞が発生。</p> <p>【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】</p> <p>①基本事業費は、荒川線立体交差工事による住居への影響を低減させる仮設工への変更(約6億円)、姫路市南西部の主要水道幹線の不断水による移設等の移転費の追加(約5億円)により、計11億円の増額となる。</p> <p>②荒川線支障物件が71棟あり、その移転協議(移転工法、権利関係)に時間を要したため、施行期間を5年延伸し、平成34年度完成とする。</p>					
進捗状況	<p>①要移転棟数392棟の内、256棟(約65%)の移転が完了。</p> <p>②都市計画道路及び区画道路は、全区間約19kmの内、約11.9km(約64%)が概成済。</p> <p>③平成20年度から91区画の保留地を販売、54区画売却済。(平成25年7月末現在)</p> <p>④柵田踏切の立体交差事業は、JRと設計委託を平成25年度内協定予定。</p>					
評価視点	評価結果の説明					
審査会意見(H20再評価)	【審査会意見】	【対応方針】				
	継続妥当					
(1) 必要性	<p>①都市計画道路の整備や柵田踏切の立体交差化により渋滞緩和や歩行者の安全確保を図るとともに、駅へのアクセス機能や広域的なアクセス性を向上。</p> <p>②避難路や避難場所となる区画道路、公園の整備により災害に強い街づくりを行う。</p>					
(2) 有効性・効率性	<p>①費用便益比B/C=1.3(前回評価時点B/C=1.4) 道路等の整備により新規住宅等の建築など土地の有効利用が図られ、投資効果は高い。</p> <p>②都市計画道路、公園の整備等により、交通至便で快適な市街地を形成。</p> <p>(事業執行環境) ③仮換地指定は100%完了しているなど、地元の執行環境は整っている。</p>					
(3) 環境適合性	<p>①地区面積の約3.5%の公園を整備し、良好な環境の形成。</p> <p>②渋滞緩和や走行速度の向上により、CO<sub>2</sub>排出量を削減し、地域の環境改善に寄与。</p>					
(4) 優先性	<p>①問題踏切かつ渋滞交差点である柵田踏切の立体交差化を早期に行う優先性は高い。</p> <p>②都市計画道路等の整備により、通勤通学者や自転車利用者の安全性を向上。</p>					
再評価の結果	継続	理由	再評価時から人口及び交通量とも増加傾向と事業の必要性は高まっており、JR立体交差の迂回路工事に着手していること、広域的な道路交通の円滑化を望む要望は依然として強いことなどから、継続して事業を実施する必要がある。			

## 事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体	H11～H34年度【事業費＝205億円】 都市計画道路 4路線、区画道路及び整備工事 1式	
前回 再評価まで (H11～H20)	事業採択から H20年度【事業費＝53億円】 都市計画道路4路線(2,551m) 1,088m概成(約43%) 区画道路(16,017m) 8,928m概成(約56%) 移転物件(392棟) 151棟移転(約38%) 宅地面積(45.7ha) 27.4ha 施行(約60%)	宅地面積約60%の整備が完了し、新築戸数81戸が建設
過去 5年間 (H21～H25)	H21～25年度【事業費＝46億円】 都市計画道路4路線(2,551m) 115m概成(約4%) ※合計約47% 区画道路(16,017m) 1,793m概成(約11%) ※合計約67% 移転物件(392棟) 105棟移転(約27%) ※合計約65% 宅地面積(45.7ha) 3.7ha 施行(約8%) ※合計約68% 保留地整備(91区画) 54区画売却済(約59%)	宅地面積約68%の整備が完了。H20年度から保留地販売を開始、新築戸数236戸、地区人口371人増、福祉施設や保育施設が立地
今後 9年間 (H26～H34)	H26～34年度【事業費＝106億円】 都市計画道路4路線の完了(1,348mの整備) 区画道路の完了(5,296mの整備) 宅地整地工事の完了(14.6haの整備) 保留地整備(101区画)、保留地販売(138区画)を促進	良好な市街地形成を図り、土地の有効利用を進め、住宅地192区画を提供

# 事業位置図



# 事業設計図

